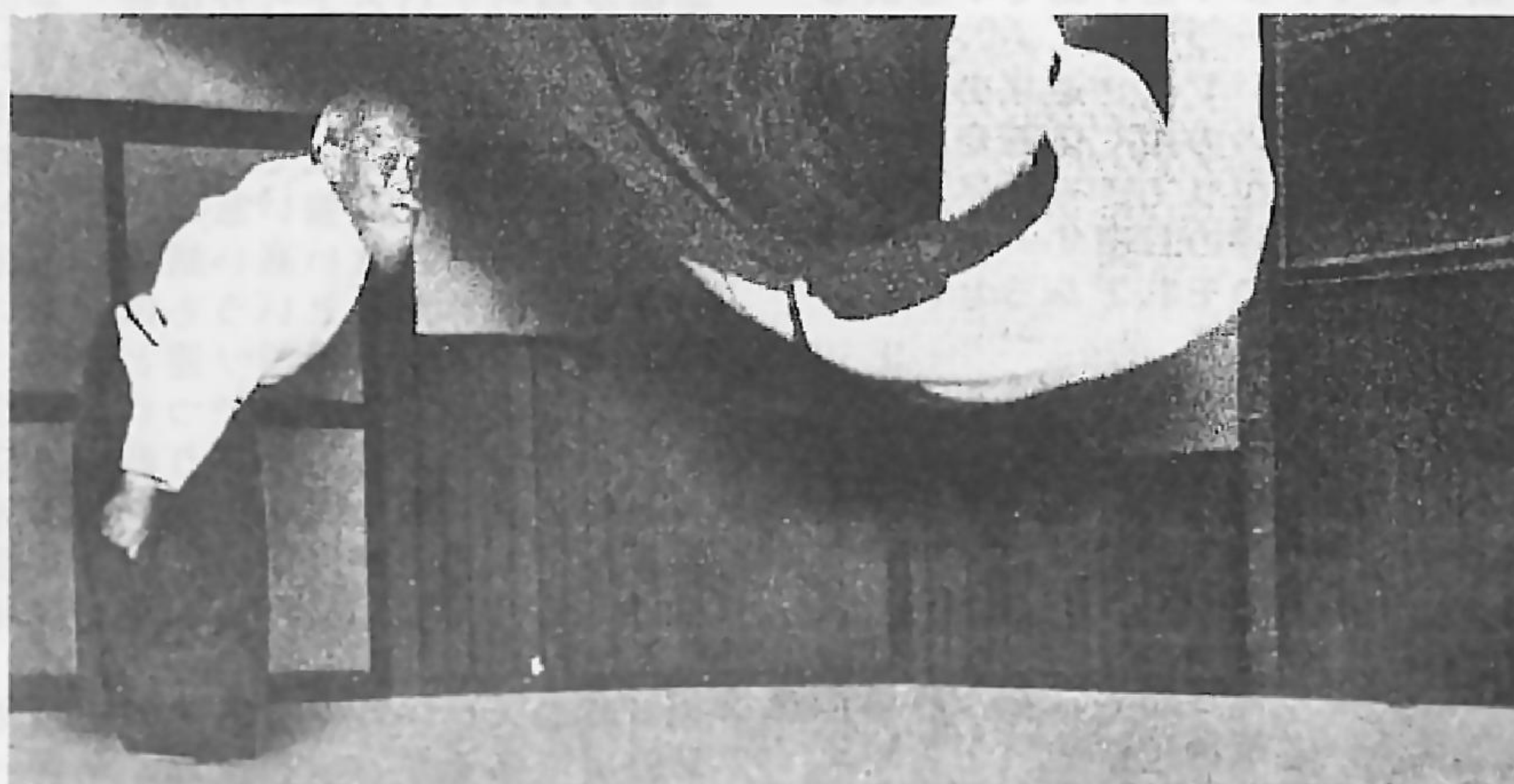


第2号
平成2年(1990年)1月発行
稽古仲間を結ぶ支部報

ア イ キ
— △ ○ □ —
精武館通信

支部長・山端一夫/(078)521-3343
〒652神戸市兵庫区石井町8-2-12
〔財〕合気会神戸支部・精武館



目次

随筆		
「遠くて近い国・フィンランド」	道場長・横田金典	2
「合気道雑感」	西脇道場代表・藤本敏男	3
「無題」	去舟	4
「始めた頃の思い出」	山下秀夫	4
「合宿を終えて」	松平秀利	4
「袴姿にあこがれて」	小坂君子	5
「道と場に身を置いて」	草野嘉之	5
「ちょっと軽〜く合気道賛歌」	森益美	7
「“女盛り”と合気道」	中尾明子	8
「無題」	曾川治	8
「合気道の印象」	中篤徳	8
「合気道との出遇い」	土田剛司	9
「Aikido at Seibukan」	ジョー・ウィルマン	9
「合気道を始めて」	新川敏也	9
「親子で合気道」	小川直樹	11
「ぼくと合気道」	小川泰治	11
「合気道がいちばん好き」	竹内ゆう子	11
「中尾先生と村上先生のちがい・II」	竹内亮介	11
平成2年・今年の抱負		12
基本技を考える①・「一教」		13
精武館 互版		14
事務局だより		14
合気道について（入門を希望される方へのご案内）		15
編集後記		15
神戸支部及び関連道場案内		16

遠くて近い国・フィンランド

道場長・横田金典／七段

合気の話でなく、少々堅い話で申し訳ないが、今回は余談を一つ……。

現在、東欧諸国ひいてはソ連邦の共和国の中からも、燎原の火の如く体制変革、自主独立運動が燃え上がってきて世界の注目を浴びているが、彼等の目指す一つの理想体制がフィンランドのそれであるという。何故か。

たまたま本年5月、大した予備知識もないまま同国を訪れる機会があり、たかが500万の人口を有するのみの小国ながら、世界の十指に入る1人当りGNP、世界一の大型豪華客船建造能力と実績、インテリア製品や陶器等に見られる瞠目すべき独創性と芸術性、整備の行き届いた落ち着いた市街のたたずまい、贅沢ではないが高い生活レベル。またこれからは、ゆとりの象徴ともいわれているヨット、小型クルーザー等を殆どの家庭が持ち、週末には存分に生活をエンジョイしているのを目の当りにし、このような体制がどうして出来上がり、維持出来ているのか、強い印象と興味を抱いた。

最近さる文献で、同国の歴史の一端と、日本との関わりも浅からぬという事実を知らされ、日本もしっかりしなければという感慨を抱いたので、その点を少し紹介してみたい。

フィンランドは先述の通り、面積こそ日本とほぼ同じであるが人口は500万たらずの小国であるため、1917年のロシア革命を機に独立を獲得するまでに、通算すれば大国ロシアに700年近く、また東隣するスウェーデンにも100年前後、再三占領を繰り返された悲惨な歴史を持ち、特に大国ロシアからの独立が悲願であった。

一方我国が、1905年の日露戦争でこの大国に戦勝、これが帝政ロシアの崩壊を早めた事、さらにフィンランドの独立に際し、我国が明石元二郎なる人物を通じて独立工作を莫大な資金面も含めて積極的に支援した事などから、同国は我国に対し特別の親近と尊敬の念を抱いており、その辺の一端は、同国の最高人気ビールが東郷元帥

の肖像をラベルに使ったアドミラルビールであることから伺われる。(注：アドミラル＝海軍元帥)

しかし、およそ長年にわたり他国に領有され、しかも宗主国が同国に対し強い利害関係を持っているような場合、そこからの独立は至難の事であり、フィンランドの例は歴史的にも希有な事例と言われる。しかしこれは結果であって、これを勝ち取ったフィンランド人の強い意志、粘りと行動力、そしてさげられない高い犠牲を思えば、そのすごさがわかるというもの。というのも同国の独立後も、隣国ソ連とのあつれきは続き、国境問題がもとでついに1939年、1941年と2度にわたり戦火を交え、小国としてよく戦ったものの遂にソ連に屈し、1947年領土の割譲、莫大な賠償金の支払いという苛酷な条件をのんで講和条約を結んでいる。

当時の人口が400万そこそこであったとの事であるが、以後まさに挙国一致、国民の懸命の努力でこれを完済し、さらに1952年国際オリンピックを開催しているのである。

我国が開催した東京オリンピックは1964年。終戦時の疲弊は言語に絶したものであったにせよ、以後20年近く、ひたすら経済復興に専念し、“もはや戦後でない”と言わしめた頃であった事を思えば、国力的にも天地の隔たりがあったのではないか。

さらにフィンランドはその後には中立政策を堅持しつつ、北欧3国はもとより、ソ連とも積極的な経済交流を通じ着々と国力を蓄えてきただけでなく、感銘すべきは同国の世界平和維持に向けての小国とも思えぬ積極的行動である。

同国は国際平和がなければ一国の平和は維持されない事を、2度にわたる戦争から深く学び、1970年国連の安保理事会に加盟、“小さな中立国ながら、世界平和の維持、ひいては紛争の調停や平和的解決に奉仕する為、客観的な態度と自制心をもって行動する事が義務である”と宣言し、以降1973年の中東戦争、最近ではアフガニスタンからのソ連軍撤退の監視、いまだにくすぶり続けているレバノン南部、イスラエル・シリア国境紛争地帯への国連平和維持軍等に自国の軍隊を黙々と送り続け、且つ幾多の派遣部隊で同国の将軍が司令官を努めている。



火種が依然として残っている紛争地帯での監視軍の任務がいかに厳しく忍耐を要求されるものであるか、しかも派遣の度の莫大な費用は加盟国の自発的寄与に依存しているといわれている。

同国では壮健な男子は生涯予備役として全員年1回の入隊訓練を当然の義務と心得ている。

ひるがえって我国の実情はどうか。米国の安全保障の傘のもと戦後40年を過ぎ、傘の存在、意義も忘れ、“安全と水はタダ”との感覚から非武装中立、国防無用といった非現実論が大手を振ってまかり通り、自衛隊員はいわば日陰者扱い。ひたすら金余り経済大国の繁栄を実力と誤認して謳歌している。

長年の東西ドイツの悲劇と今日の事態、分断された南北朝鮮の終焉のない民族の苦悶など全く他人事と傍観しているが、終戦時の我国の占領政策で、本国の分断案もかなり確率の高い選択肢であったとか。特に最近“国際化”をはき違え、深く世界の歴史や地政学に学ぶ事も忘れ、世界の一員としての“国”の意義も大事にしない浮ついた風潮が強くなってきている。過日も最近の小中学校の入学式で、4割もが君が代を歌わぬとか、の報道があった。これは生徒の問題ではあるまい。恐ろしくも情けない事である。さらに現在、我国では、自国の防衛という地味かつ重大責務についている自衛艦の寄港すら喜んで認める港も少ない。

こんな“おらが村さえ”の感覚が、いつまで国際社会に通用するか。環境問題同様、いや世界平和こそ、各国がお互いの存在を認め合い現実的に果すべき義務を履行する事で成り立つ。我国の存在と世界各国との関わり合いに思いをはせるとき、世界の一員としての視野から説得力ある行動をとらねば世界の孤児となるばかりか、ひそかに熱いまなざしを送りつづけてくれる遠い友人も失う事となろう。

フィンランドには合気道の同好者も多いと聞く。フィンランドに今こそ学ぶ事が多いと実感した次第だがどうだろう。

(注：本原稿は昨年11月に執筆されています。)

合気道雑感

西脇道場代表・藤本敏男／四段

神戸から転勤となり設立した、西脇道場も今年で8年目を迎えました。

合気道スポーツ少年団も、総数40名に増えました。最初は1、2名で始めましたが、今では西脇スポーツ少年団においても剣道、空手、バレーボールなどについて、押しも押されぬ立派なスポーツ少年団(国際スポーツ少年団)に成長しました。

休みにはキャンプ、ハイキング、1日合気道、発表会と行事も増え、充実して頑張っています。キャンプは毎年夏、宍粟郡の福知溪谷というところに行き、親子一体となって楽しく元気に過ごします。2日目には全員で精神統一もやっています。

大人の部では、学校の先生、会社事務員の方など色々な人達が稽古に来られています。仲間の中には、車で2、3時間もかかって来られる方や、女性でよく頑張っている方がおられます。最近では皆さん、初めの頃とくらべて格段に上達されています。

練習が終わってから、皆で食事に行き、楽しく過ごすこともあります。西脇道場では、楽しく練習する事をモットーにしています。

また、西脇道場には本当に合気道の好きな人が集っているなあ、という感じがしています。技について悩んだりされることも多いようですが、それでも指導者の動きを何とか会得しようと、一つ一つの技について納得するまで質問されたりと、意欲満々の皆さんです。

合気道の技の一つ一つが極意であることを肝に銘じ、力任せでない本当の合気道の技の会得を目指して、止む事なく精進を積み重ねると共に、西脇道場を大きく成長させたいと考える次第です。

なお、神戸支部の皆様にはこれからもお世話になるとは思いますが、その節は、何卒よろしくお願いいたします。

合掌。ありがとうございました。

追伸：

西脇道場を思っ頂き感謝します。西脇の地より、神戸支部の皆様の今年の御健康と御多幸を祈念いたします。



無題

去舟／三段

審査で自由技をやりなさい、と云われ、始めるが技がなかなか出てこない。初めから終わりまで同じ技で終わる時期がある。

次の段階で、始める前にあの技、この技と思い巡らし始めるが、やはり一つか二つしか技が出てこない。その次の段階になると、技に入りながらその最中に、次はこれをやろうと考える余裕が出てくる。

これを卒業すると、瞬間的に相手の状態を見て次の技が出る。そして更に次の段階では無意識に技が出る。これが最高か？

「芸の道を極めようとすれば、初めは全てに従順である方が良い。しかしその時期を過ぎてなお従順であるのは馬鹿だ。ある時期がくれば全てに対して、謀叛人の旗を立てるが良い。」

(司馬遼太郎著「北斗の人」より)
考：“ある時期”が問題である。ずーっと従順で稽古した方が良くかも知れぬ？

始めた頃の思い出

山下秀夫／三段

算盤(そろばん)、習字、絵、英語・・・親が勧めた稽古事をことごとく3ヶ月以内にやめてしまい、「三日坊主」のレッテルを貼られていた私だが、合気道だけは不思議と今だに続いている。

最初から好きだった訳ではない。むしろ嫌いであった。

大学の校庭で初めて合気道の華麗な演武を見て何となく興味をもち、校内のあちらこちらに貼ってあった勧誘ポスターに見事にだまされて入部した。

来たれ新入生！合気道部員募集

- ・授業優先
- ・年2回団体旅行あり
- ・傷害保険付き
- ・年4回宴会あり

確かに授業優先であったが、クラブは最優先であった。旅行という甘い言葉に期待

を寄せていたが、泣く子も黙る鬼の合宿(1日練習6時間半が6日間続く！)で、放心状態になった。

入部した初日から頭をぼんぼんと打たされ、全身打撲の診断書持参でやっと思ひを貰った者もあり、傷害保険付きの意味がよく理解できた。

年4回のコンパでは、各自の限界を越えた酒を無理やりに飲まされ、ただでさえ恥を知らない連中が親がみれば泣くであろう芸を披露した。

学生時代の1日2時間の練習は力任せで、合気道としてはあまり上達しなかったように思うが、緊迫感があり一日一日が必死であった。厳しい稽古に耐えて、何とか4年間続ける事ができたのは、良き先輩、同僚のお陰であり、貴重な人生経験になったと思う。

あれから10年以上の歳月がたち、現在は精武館、第二道場でお世話になっている。今こうして寛容の精神に育まれた自由な気風、和気藹藹な雰囲気の中で、楽しく稽古できる事は、まさしく多くの人の献身的な努力、愛情の賜物であり、有難く感謝したい。

お陰様で合気道はやればやるほど、ますます面白くなってきた。身体の続く限り、一生続けていきたいと思う。

合宿を終えて

松平秀利／三段

少し前の事になりますが、恒例の秋の合宿も本当に楽しく終える事ができました。私自身もケガをして皆様に迷惑をかけずにすみ、ほっとしております。

いつも顔を合わせている方達に、今回は新しいメンバーも加わり、何時になく新鮮であったと思います。

事あるごとによく思うのですが、道場のメンバー各々は普段は全くといっていいほど違った生活を送っています。その中であって、合気道という一つの世界でこうして知り合い、お互いに磨き合える事はすごく素晴らしいと思い、また、この様な素晴らしい場を育て下さった横田先生、濱崎先生、そして諸先輩の皆様方に心よりの感謝の念を新たにさせていただきました。

これからも感謝の心と向上心をもち、稽古に励んで行きたいと思ひます。

袴姿にあこがれて

小坂君子／三段

地図を片手に初めて精武館をたずねたのは、今から約10年前。薄暗い道場で夜ということもあり、「ちょっと陰気だなあ」「こんなの(合気道のことですが)面白いのかなあ」というのが、正直な感想。でも、「袴姿はカッコイイなあ」と、それだけは強く印象に残りました。ただ、それが理由で始めたようなものです。(私もちょっとミーハー?)

やり始めた頃は、ちょうど梅雨の時期で雨が多く、ジメジメしており、その上、当時は女の人が少ないと言葉を交わすこともない。やっていることとえば訳が分からない・・・ときているので、何となく足取りが重かったものです。

でも、やめようと思った事は何故か一度もなく“とにかく10年は続けよう”と思い、やってきました。どうして10年かわからないのですが、3年では短いし、漠然と10年ぐらひは・・・と考えていたのです。10年だと切りがいいし、ちょっとしたこだわりです。

よく忘年会、新年会等のお酒の席で、横田先生に「あんたは、すぐやめると思おた」といわれるのですが、その度に(私は以外とひっこいんだからー)と心の中で叫び、でも、(そういう雰囲気があったのかなあ)と、当時を振り返るのです。きっとその頃の私は大人しかったから、そういう風にとられたんじゃないかなあ、といったように解釈したりもしているのですが・・・。

10年目に突入し、取り敢えずは当初の目標を達成し、もう、何時やめてもいいわけですが、でも、如何せんまだまだわからないことがいっぱい。奥が深い“合気道”、やっとな面白くなってきたところで、やめるわけにはいきません。

当初の暗いイメージも今はふっとび、明るく楽しい精武館! ちよつと年齢層が上がってきたのが玉に傷ですが・・・(自分も上げているので仕方ないかな?) これからも、ひっこくひっこく続けていきます。「早く嫁に行けー」なんて言わず、やさしくご指導して下さいね、横田先生!!

道と場に身を置いて

草野嘉之／二段

早いもので、合気道を始めてから11年が経ちました。始めた頃は、何事も枝葉の部分で見て、考えていた様に思います。そして今日では、1年は1年なりの、5年は5年なりの、10年は10年なりのそれぞれの意味、型がある事に気付きました。

うれしいことは鍛練を重ねることで、すこしづつ物事を根幹の部分で観る習慣が生まれてきたことです。これも道と場に身をおいていることが、大きな要素になっている様に思われてなりません。

元々、日本人は身の周りのことを道にしてしまう習慣がある様です。お茶を飲んで茶道、字を書いて書道、花を活けて華道と呼び、またスポーツでは野球を球道、そして古武道では柔道、剣道、弓道、合気道と呼んでいます。

そして今、この道に学んでいることが日々の困難な出来事を乗り切っていける大きな自信を生んでおります。

また、人は一日、一生において“場”という所と深い関わりを持っております。その場は職場であり、現場であり、工場であると言えませんか。場は人の集まる場所であり、場が高じて道場と言えませんか。そして道場は先生、先輩から教わり、学び、そして自分を変えていく場であると思います。このことは道をふまえた場が要求していることと一致していませんか。

これから先も、道と場に身を置き、少しでも観えないものが観えるように精進していきたいと考えております。





定付

ちよつと軽ーく合気道賛歌

森益美／二段

今や世の中は物と情報が氾濫している時代。その中で、我が精武館合気道はひたすら質素、研鑽を守りぬき、汗と汗にまみれている。汗と汗というのは私に関してはちよつと苦しいが、精武館が質素というのは正しい。

これは頑固なまでの横田、濱崎師範のアマチュア主義が災い、イヤ間違ってしまった、徹底したアマチュア主義の賜物である。何しろムダが嫌いなのである。(但し酒はムダの内には入らない)技も定規とコンパスで説明できるのではないかと思うほどムダがない。シェイプアップを目指す若き男性、女性諸君。ムダ嫌いを徹底すれば、Bodyまでムダがなくなるかもしれない。

ところでなにが楽しくて、稽古と汗とほこりの時を楽しんでいるのだろうか。痛い思いをしたり、時に関節を痛めたりして。言っておくが、この人達は全員、苦痛を受けて喜ぶタイプの人ではない。享楽主義でも快楽主義でもない、善良な市民であり、人生を楽しむタイプの人々である。みんな真面目に働き、真面目に税金を払い、日本を支えるサラリーマン、サラリーウーマンなのだ。創刊号にはこの人々の“人となり”が、全編に溢れていたのも、私は環境としての道場を考えてみようと思う。

まず先程、汗とほこりと書いたが、この“ほこり”はよそのほこりとは一味違う。畳がビニール製ではなく、藁(い)草と藁の本畳なのである。我々の汗と、時に血をたっぷり吸い込んでいる。汗を吸い込んだ後は、縁側の一角に積み重ねられているうちに、水分を蒸発させている。それで畳がムレてダニがでたり、感染症の原因になることはない。道場にきて皮膚病になったり、アレルギーがでた、というのは聞いたことがない。我々は呼吸している畳に支えられている。(イヤー、遂に畳から呼吸がでてきてしまった。藁による浄化なんて言ったら新興宗教みたいになるので、畳にたいする私の信仰心はこの辺で終わりにする)

次に建物及び建物を取り囲む環境について、自然について考えよう。我が精武館は木造平屋建てである。この地価上昇のおり、こ



んな贅沢は選ばれた者しか許されていない。

暑い夏の日、外はカンカン照りがまぶしい。ちよつと稽古の手を止めてみれば、風がそつと汗ばんだ頬をなでてゆく。外をみれば日本式の庭園がある。手入れの行き届いた木々の間から、爽やかな風が送られてくる。夜、蚊がいることなんて目じやない。こんな本部に行ったら経験できない。(決して本部のことを悪く言うつもりはありません)まあ、鞍馬の山に行けば(合気道の道場は無いと思うが)もっと涼しく、もっと肝を強くできるだろうが。

JR快速の止まる駅からバスで10分でこの環境は贅沢というものだ。おまけに道場は烏原の水源地の山の麓に位置している。道場から歩いて10分も登れば、川をせき止めてできた貯水池が山並みを映しているのが見える。かつて、ここの堤防が切れ、新開地一帯が水浸しとなったことがあると聞く。今は上流の開発が進み、水量は減ってきている。何故、こんな町中に山が残っているのか不思議なくらいである。森林破壊が進み、大気の温暖化が地球的規模で問題となっているが、この山は絶対残ってほしい。我が道場のためにも。

私が何とか道場に来続けているのも、この道場の大らかなところゆえである。この人々の純朴さと共に、自然に接し、自然の息吹きする道場に負うところが多い。

山端支部長ならびに御家族の皆様へ感謝しつつペンを置きます。

“女盛り”と合気道

中尾明子／初段

合気道って楽しいですね。手と手をつないで、目をみつめ合って、身体と身体が触れて、そして、あっという間に投げられ、叩きつけられ、起きるに起きれない……。油断をしたら命までなくなりそうな、やさしくて怖い合気道。私もとうとう足が抜けられなくなりそうです。

私は6～7年前迄は、盆の後と正月明けには、必ずといっていいほど高熱を出していました。それがお陰様で今はすっかり影をひそめ、身体が軽く（あんなに空中を飛ぶんですから当たり前かしら）肩のこりがなくなり、今や“女盛り”を満喫しています。

これこそ精武館の横田先生はじめ、皆様の暖かい触れ合いのお陰だと感謝しています。（なぜなら、主人は私にだけは下手くそや、見てられん、と私の気持ちをくじく言葉だけしか言ってくれなかったのです）

プラス、母上の忍耐と寛容に心より感謝して、この心身共に健康になれる合気道が、より一層多くの人々の心と身体をとらえていけるよう、日々新たに頑張りたいと思います。

合掌。



無題

曾川治／1級

合気道は武道の激しさが表面に出ず 冷静さを背後に秘めて 闇の動きが演じている美しさに寫る

今の小生にはその様に視える

しかしまた小生もあと2、3年後には視方が変わるかも・・・？

合気道は夢の武道

合気道の印象

中篤徳／1級

私が合気道を本格的に稽古し始めたのは、2年ほど前からですが、父は私が物心ついた時には既に合気道をしていたので、私は小学校に入学した時ぐらいから、何度か精武館に来た思い出があります。

もちろん当時は稽古をしたという記憶はほとんどなく、遊びに来ているという感じだったのですが、その時子供心に私が感じた合気道の印象は非常に奇怪なものでした。

というのは、お互いに関節技を掛け合ったり、投げ飛ばしたり、傍で見ていなくてもとても痛そうな事ばかりしているのに、どの人もとても楽しそうにしているのです。実際に中に入って技を掛けてもらっても、痛いだけで全く面白くありません。当時は「とても変わった人達だなあ」という印象しか持てませんでした。

それから長い間精武館には足を運ばなかったのですが、最近になって再度通い始めて、先ず最初に驚いたのは、10年以上も前に稽古されていた人達が、現在も稽古を続けられていた事でした。「これはきっと合気道にそれだけ人を引き付ける魅力があるからに違いない」と思い稽古を始めました。

もちろん最初は痛くて苦しいだけでしたが、半年、1年と経っていくうちに、少しずつ苦しみが楽しみに変わっていく様に感じました。

また精武館の方々は、全く基本すら出来なかった私を面倒くさいとも思わず、親切に指導して下さって非常に感謝しております。またこの事が合気道を続けられた大きな原因だと思っています。

これからは他の方々の様に、何十年も合気道を続けられる様に努力していきたいと思っています



合気道との出遇い

土田剛司／2級

そもそも私が合気道を始めようと思ったのは溯ってみれば、大学浪人中であったようだ。自宅浪人していた私にとって、一日中の受験勉強の中での唯一の息抜きは、家族の団欒と昼食時のテレビだけであった。その中でも1時にあった時代劇シリーズは、毎日楽しみにしていたものだ。

そのシリーズに「さらば浪人」という、藤田まこと演じる、非常に情の厚い浪人が仕官の口を求めて妻と旅する物語があった。この侍は剣も達人だし、文にも秀でているのだが、あまりに正直で人が良すぎて、仕官の口が決まる寸前で人に功績を譲ったりして、何時も損をしている男の話なのである。この主人公の誠実な生き方に、当時の私は毎日毎日共感し、たまに感激して思わず泣いてしまったこともあった。

この主人公「みさわいへい」の使っていた武道が何となく私には合気道に思えたのである。決して他人を傷つけず、和のためにのみ武術を使い、戦えば無敵、片っ端から、手刀と投げで、ポンポンと捌いていく姿に、人間としての強さと、優しさと誇りを感じたのである。

そして、6年たった今でも、私の心の中で「みさわいへい」は生きている。

Aikido at Seibukan

ジョー・ウィルマン／5級

My name is Joe Willman, and I am from America. I have practiced some Aikido in America, but the three months I have practiced here have been much more intense and satisfying.

In spite of the high and low temperatures, and the firing, sometimes painful workouts, I enjoy learning Aikido very much.

Aikido is also a good opportunity to meet Japanese people and make friends. All of the people at the dojo have been very friendly, and I can always

look forward to the practices.

I'm very much looking forward to the remaining months I'll be able to practice at Seibukan.

I hope we all have a good year.

訳：

私はジョー・ウィルマンといいアメリカからやって来ました。

アメリカでも合気道を学んでいましたが、この道場での3ヶ月間の稽古はそれ以上に素晴らしく満足できるものでした。暑かったり、寒かったり、擦り傷を作ったり、時々痛い技の練習があっても、合気道を学ぶことは大きな喜びです。

合気道はまた、日本人と出会い、友人を作る絶好の機会でもあります。道場の皆様にはとても友好的に接していただき、いつも稽古を楽しみにしています。

日本での残された数ヶ月間、精武館で稽古できることを非常に喜びに思っています。

私たちにとって今年が良い年でありますように。

合気道を始めて

明石道場・新川敏也／無級

高校を卒業し、何かスポーツをやって体を鍛えようと思い、合気道を始めました。力を入れずに自分より大きな人を簡単に投げ飛ばすことができ、しかも人を傷つけないというところに引かれたからです。

ある日、正座をしている先生が、「前から思いっきり押してみなさい」と言われ、力一杯押してみました。ところがびくともしませんでした。

先生が稽古中、よく「気」という言葉を使われます。中でも「気を前に出す」という言葉にとっても印象深いものを感じますが、その時、初めてその意味がわかると同時に、合気道を修業する上で「気」が、どれだけ大切なものであるのかわかりました。

合気道を始めて半年。体を鍛えるという目的でやり始めたのですが、精神的にもかなり多くのことを学びました。このことを合気道だけにとどめず、私生活にも生かしていきたいと思っています。

③③③ありもとたろう君(10級)の描いた子供クラスの練習風景③③③



親子で合気道

明石道場・小川直樹／4級

私は、私の息子が小学校に入学するのを機会に、何か武道を身につけさせたいと思い、空手を習わせるつもりでした。

ところが、食養家の桜沢如一氏の書物の中で、合気道が天地の理、宇宙の秩序に適っていること、また他の武道がスポーツへの道を歩んでいる中で、道の精神を残す武道である事を知り、道場を捜していました。

偶然、明石大蔵コミセンにサークルがあることを知り、代表者の小久保先生に子供の指導をお願いしました。先生は「親子でなら、いいでしょう」と言われました。子供だけ入門させようと思っていた私が、合気道に入門する動機となり、今では本当に感謝しています。

週に1回の稽古ですが、先日(11月26日)の試験で4級に認定していただきました。今の目標は、初段になって少しでも他の人に教えられる様になることです。下の娘(5才)も、小学校に入る頃には、入門させようと考えています。

今後ともよろしくお願いいたします。

ぼくと合気道

明石道場・小川泰治／10級

ぼくは、おとうさんといっしょに、大くらコミセンで合気道をなっています。ぼくがいつもなっている先生は、小久保先生です。

ぼくは8才で、ぼくの妹は5才です。ぼくの妹、さやかも小学校に入るときは、ぼくといっしょに、合気道をなっていると思います。

ときどき、こわい先生や、やさしい先生が、ほかの場所からやってきて、ぼくやおとうさんやほかの人に教えてくれます。阪野先生は、やさしいけれど、もうしよだんです。ぼくは、10きゅうです。

上手になって、1年でも早く、はかまをはいた、りっぱなしよだんになりたいです。

〈注：小川直樹さんと泰治くんは親子です〉

合気道がいちばん好き

竹内ゆう子／8級

わたしは合気道を3年の4月からならいはじめました。

最初は前うけみが少しもできませんでした。でも、何回もやっているうちに自然とできるようになりました。そのときはとてもうれしかったです。

それに、このごろは人数がふえ、いっしょにやる友達もふえてきました。最初、がらんとしていた道場も、いまは、わたしのクラスより多いくらいです。

わたしは今、習いごとの中で、いちばん合気道が好きです。毎週土曜日になると、つい、「やったあ、今日は合気道の日だ」と、いってしまいます。わたしの友達もそういっています。

これから何年も合気道をやっていきたいと思っています。

中尾先生と村上先生のちがい・Ⅱ

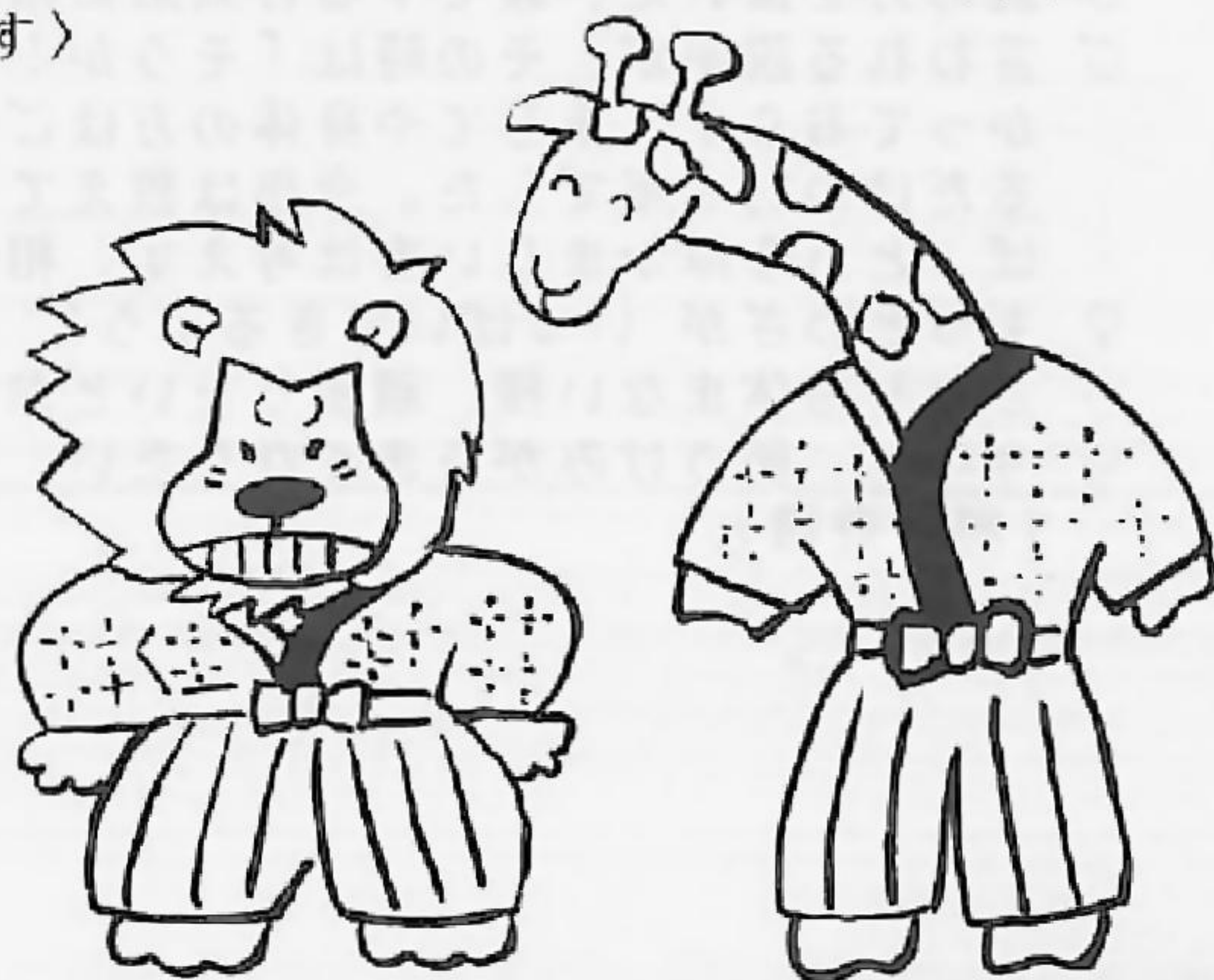
竹内亮介／8級

さいしょ、みんながうけみをして、たたみのうえにすわった。

中尾先生が、「竹内君」といった。ぼくは、かべにくっついて、にげた。でも、中尾先生がおいかけて、やらされる。中尾先生はライオンかトラだ。

次は村上先生だ。村上先生のぼあいは、なにも名前をいったりしないのに、みんながやる。村上先生は、10人ぐらいの、あい手をしている。村上先生はキリンみたいだ。

〈注：竹内ゆう子ちゃんと亮介くんは姉弟です〉



平成2年・今年の抱負

今年はウマ年。黄金の天馬の如く飛翔する1年でありますように！ 皆さんの抱負は？

- 人生の転機の年になるやもしれず。ウマく乗り切りたい。(横田金典)
- 合気道の技を一つずつ、確実に身につけていく深さを追及しています。最近は特に、合気道が生活、仕事にも生かされなければいけないと努力、精進しています。大先生の教えの深さを今もって考えさせられるこの頃です。(藤本敏男)
- この1年を振り返ってみれば、又今年も横田さん、濱崎さんへの道程は遠く、少々ウンザリしている。ただ、仕事が半分になったお陰で、週に5～6回の稽古が出来た事に感謝している。1月の新年会に始まり、「横田さん、濱崎さんの昇段祝い」「和田君、越ちゃんの結婚」「遠藤先生の合宿、講習会」、東京から来神の諸先輩・・・そして、先日は広島で山口先生の技の一端に触れる機会を与えられた。合気道そのものへの興味も尽きないが、合気道を通じて知り合った人々の「おもしろさ」が嬉しくて仕方がない。今年も「アフター合気道」に乾杯！(中尾眞吾)
- 昨年の稽古時間は週1回がやっと。今年は精武館、第二道場、明石道場をフルに利用して週2回以上稽古したい。(去舟)
- 昨年5月に中尾夫妻のご媒酌で結婚。私生活での転機の年であり、色々な面でも充実した1年だった。精武館での稽古、一教づくしの第二道場も尚一層頑張りたい。(和田正志)
- 昨年は8月に首筋を痛め、後半はあまり練習できなかったのが残念だった。今年は基礎体力づくり、健康体操を心がけ、体調をととのえて練習に励んでいきたい。(山下秀夫)
- まず、ケガの無いようにしたいと思います。そして、人に心から感嘆される技が出来るように頑張ります。(松平秀利)
- ♀ 好きなことを どんどんすること！(和田越子)
- ♀ 厄年にあたる1990年は、ひたすら静かにおとなしく、突飛な行動は慎み、合気道ONLYで、といいたところですが、最近水泳も面白くなってきたので、2つをバランスよくやっていきたいと思います。そうそう、中尾さんにならって自転車も始めたいのですが・・・(ひとつも、おとなしくないかな？)(小坂君子)
- ♀ ついこの前にも「今年の抱負」を考えたような気がする。「光陰矢の如し」今年の光陰は矢の如くでなく、牛歩の如く重き歩みを、とでも言うておこう。(森益美)
- 型のもつ意味を考えてみたい。そして固い技から脱皮し、柔らかい技(話す技から聞く技へ)を心掛けたい。力、衝突、仕掛けるという固い型の練習を続けていたために、技と技の変わり際にスムーズさが欠けていたと思う。(草野嘉之)
- ♀ コツコツ、マイペースで、ウマ年でもゆっくり行きます。受けも技も腹から出来るようになりたい！(中尾明子)
- 打倒！！川端さん(あくまで抱負)(阪野英幸)
- 去年と同じ様に無事故で出来れば良い。(曾川治)
- 去年はいろいろ忙しくて、あまり稽古出来なかった。今年からは社会人となるので、どうなるか分からないが、出来るだけ稽古は休まない様にしようと思う。(中篤徳)
- 腕の力を抜いた、腹でやる合気道に精進したい。(土田剛司)
- 言われる説明が、その時は「そうか！」と分かっているふりをしていたけど、結局は分かっておらず、ましてや身体の方はごまかしがきかず、フラフラ、バタバタと格好をするだけの約1年でした。今年は教えていただく事が、心身共に少しずつでも理解出来れば、という厚かましい事は考えず、相変わらずぼちぼちやりたいと思います。(廖学誠)
- ♀ もっとわがが いっぱいできるように がんばる(竹内ゆう子)
- ことしも休まない様、頑張りたいとおもいます。(田村政人)
- ♀ 今年は、前うけみがうまくなりたい。去年は、あまりできなかったのがざんねんだった。(網野香織)

基本技を考える①・「一教」

合気道は一教に始まり一教に終わる、と言われたり、全ての技は一教から展開出来ると言う人もいるくらい、一教はまさに基本中の基本であると言えます。さて、神戸支部会員の皆さんの一教に対する声を聞いてみよう。

[注： 蕨 = 一教が大好き、♡ = 好き、● = 普通、○ = 嫌い、⊖ = 大嫌い、■ = その他]

- 蕨 入門以来一番数多く稽古した技。その割には何回稽古しても上手にならない技。相手より先に動くのが良いのか？ 後の先か？ 先の先か？ 難しい。体が前に流れない様に注意している。(去舟)
- 蕨 ただ腕を振り上げて、ただ腕を自然に下ろしているだけなのに、絶妙の間合いとタイミングで相手がふっとんだり、畳に叩きつけられるように崩れている、そんな凄い技をみたことがある。これこそ本物の一教だ、と思った。腹が中心の、力が抜けたしなやかな剣の素振り、剣の操法で養った呼吸力を体に活かす事により、この技を身に付ける事が出来るのではないかと考えている。(和田正志)
- 蕨 相手への入身は、正面打ちの一教が一番難しいように思う。見てからでは遅く、相手の打とうとする気を感じるようにしなければ間に合わず、立合の真剣さが要求される。今だに足捌き、体の動きがよく分からないが、見た目は単純にして奥が深い一教に興味をひかれる。(山下秀夫)
- 蕨 練習量が一番多いのが一教。それだけに一教のもつ意味の深さを感じます。わたしなりに一教とは人対人の技術、コミュニケーションを深めるノウハウを教えていると思っております。(草野嘉之)
- 蕨 一教がきっちり出来なければ、あとがみない加減な技になってしまうので、いろんな形の一教を、もっともっと勉強したいと思います。(中尾明子)
- 蕨 おもしろいから たのしいから (高村昌幸)
- ♡ 好きは好きなんだが、あの裏の流しと言うか、落としが、いまいちよく解らない。(阪野英之)
- ♡ こんなに難しい技は、他にないと思う。一教は一番時間をかけて練習したはずなのに、今だに全く出来ないのは我ながら情けない。(中篤徳)
- ♡ スパッと落とせた時の爽快感。(土田剛司)
- ♡ 一教は合気道の中で一番簡単？ ではないでしょうか。(網野香織)
- 正直言って、受けを取っていただく人により、好きにも嫌いにもなる技であると思います。一教の受けは特に正確にとることが必要だと思います。合気道の中で一番大切な技だと思います。(藤本敏男)
- 腕を押え、制するという、それだけの一見簡単に見える技であるが、その実難しい。簡単に出来れば大好きになるだろうが・・・(松平秀利)
- 一教はひとつのあこがれです。(和田越子)
- いつも一番最初の技で、一番稽古量が多いはずなのに、ちっとも上手にならない。でも、全ての技の基本だから、大切に、きちんと身につけたい！(小坂君子)
- 相対する相手は大きく強そうである。一瞬の気の動きを一刀両断に切り下ろし、相手のふところを地にふせる。そううまくいけば、なんていいのだろうか。全く美の極地である。なんてしんどい一教か。本当はもっとソフトにキビしいのだが。(森益美)
- 座技が好き 立技が嫌い 背が低いから (曾川治)
- 今の所、あまりよくわからないので普通にしておきます。でも将来もう少し合気道に深入りすると、なにか大好きになりそうな感じがしています。(廖学誠)
- すればするほど難しく、すればするほど愉しくなる一教。編集長の一教への思い入れに乾杯！(中尾眞吾)
- 好き、嫌いの判断の問題ではない。基本技だけに、とにかく自分なりの答を見つける迄、そしてまた新しい壁に挑戦する気持で続けるしかない。(横田金典)

みんなの伝言板です

精武館 互版

メッセージ待ってます!

西脇道場・藤本敏男さんより

横田先生、濱崎先生、本部の遠藤先生、打越さん、村上さん、中尾さん、和田君それから精武館の心の友人の皆さん、御無沙汰しています。忙しく、また遠いのでついそのままになっています。稽古は十分したいと思っています。いつかまた、お邪魔しますので、その時はよろしく願います。

森益美さんより

編集の皆様、御苦勞様です。そして有難うございます。楽しい皆さんのメッセージを私たちに送って頂いて。それとこの度、原稿を書くにあたって、忘れていた漢字を私に再び蘇らせて下さいまして、感謝致します。すでにボロであった小4の時買った三省堂の国語辞典は益々ボロになりました。

小坂君子さんより

金田のしーちゃん&お姉ちゃん、お変わりありませんか?たまには道場に顔を見せてくださいね。

草野嘉之さんより

武道に関するビデオがあれば貸して下さい。

編集グループより

精武館通信一緒にやろうという人大募集!

阪野英幸さんより

合気道をテーマとする、又は主人公が合気道を行なうような小説、マンガ、ビデオ等があったら教えて下さい。

事務局だより

1. 第5回合宿の報告

恒例の秋の合宿が下記の要領で行なわれました。場所は例年の篠山ではなく新舞子でしたが、稽古と稽古後の宴会はいつもどうりの楽しい合宿でした。

日時:平成元年11月18日(土) JR網干駅15:30集合、11月19日(日)12:30現地解散

場所:御津町体育館 & 美津和荘 (TEL:07932-2-1212) 兵庫県揖保郡御津町新舞子

スケジュール: 11/18 16:00-18:00 稽古 19:00-21:00 夕食、宴会

11/19 9:00-12:00 稽古

参加者:横田、濱崎、打越、村上、中尾、中口、川端、小久保、西嶋、和田(正)、和田(越)、松平、小坂、草野、河元、山崎、麻植、濱本、池内、近澤、山部、星野、土田、浜田、河原、廖、加埜、ジョー・ウィルマン(以上28名、敬称略)

2. 昇段昇級おめでとうございます!

平成元年度の昇段昇級審査が11月26日(日)行なわれ、以下の皆さんが昇段、昇級されました。

一般クラス

三段 小坂君子

初段 濱本憲一、池内信也、近澤亜希子

1級 曾川治、中篤徳

2級 土田剛司

4級 小川直樹(明石道場)

5級 ジョー・ウィルマン(Joe Willman)

子供クラス

6級 西下徹、楠本千賀、片山瑞穂

7級 片山摩耶、鄭成裕、西田珠玲、西田耿栄、菅原久志

8級 竹内亮介、釜谷龍、竹内ゆう子、高見馨

9級 佐治孝輔、鈴木朋之、鈴木貴也、高村昌幸

10級 永田晴夫、田村政人、小川泰治(明石道場)、片嶋宏介、廖健大、中村健一郎、有本央子、中村かおる、石倉幸恵、田村明子、瓦谷壮、有本太郎、内田正太、内田阿蘇彦、内田文、内田哲平



合気道について(入門を希望される方へのご案内)

合気道は昭和の初め、今から約65年前に不世出の武道家・植芝盛平によって創始され、戦後一般にも急速に普及されてきた武道です。植芝盛平開祖を道主として昭和23年に組織されたのが財団法人・合気会で、現在は子息である植芝吉祥丸現道主に引き継がれています。(財)合気会は国内に300以上の支部、道場と世界約50ヶ国の支部に、約120万人の登録者を持つ、合気道の正統的かつ最大の組織です。

精武館はこの合気会の神戸支部道場で、今年で創立31年の伝統を持ち、自由で明るい気風を特色としています。

合気道について創始者の植芝盛平翁は次のように述べています。

「合気とは、敵と闘い、敵を破る術ではない。世界を和合させ、人類を一家たらしめる道である。合気道の極意は、己れを宇宙の動きと調和させ、己れを宇宙そのものと一致させる事にある。合気道の極意を会得したものは、宇宙がその腹中にあり『我は即ち宇宙』なのである」
「合気とは『愛』であり、天地の大愛を心として、あらゆるものを愛護することを自己の使命としなければならない。真の武は自己に打ち克ち、敵の闘う心をなくす・・・いや、敵そのものをなくしてしまう絶対的な自己完成への道なのです」

「合気道においては常に相手がなく、相手があっても、それは自分と一体となっていて、自在に動かせる相手なのです」

合気道練習上の心得

合気道開祖・植芝盛平翁

- 一、合気道は一撃克く死命を制するものなるを以て 練習に際しては指導者の教示を守り 徒に力を競ふべからず
- 二、合気道は一を以て万に当るの道なれば 常に前方のみならず四方八方に対せる心掛けを以て練磨するを要す
- 三、練習は常に愉快に実施するを要す
- 四、指導者の教導は僅かに其の一端を教ふるに過ぎず 之が活用の妙は自己の不断の練習に依り始めて体得し得るものとす
- 五、日々の練習に際しては先ず体の変化より始め 逐次強度を高め身体に無理を生ぜしめざるを要す 然る時は如何なる老人と雖も身体に故障を生ずる事なく 愉快に練習を続け 鍛練の目的を達する事を得べし
- 六、合気道は心身を鍛練し至誠の人を作るを目的とし 又技は悉く秘伝なるを以て 徒に他人に公開し或いは市井無頼の徒の悪用を避くべし

以上

編集後記：お待たせしました。やっと第2号が出来ました。精武館で、大好きな合気道を稽古する仲間の心のコミュニケーションの場として、いささかでもお役にたてば幸いです。これからも年1回、新年の稽古始めに発刊することを目指したいと思います。(あくまでも目標です・・・)皆さんの御協力をお願い致します。何はともあれ、合気道と精武館と稽古仲間の皆さんの今年の発展を祈って乾杯！(申し遅れましたが“精武館通信”の名付け親は中尾眞吾さんです。また本文中のカットは阪野英幸さん、和田越子さんの作品です。有難うございました)

〈精武館通信編集グループ： 中尾眞吾、小久保宏、和田越子、和田正志(編集・文責)〉

神戸支部および関連道場案内

(財)合気会神戸支部・精武館

所在地：〒652神戸市兵庫区石井町8-2-12

☎(078)521-3343

支部長：山端一夫

交通手段：JR神戸駅より神戸市バス7「三ノ宮」行きに乗車(約10分)「石井町」下車、山側すぐ

稽古時間：(一般クラス)火曜日 18:30-20:00

土曜日 18:30-20:00

日曜日 10:00-12:00

[子供クラス]土曜日 16:30-17:30(合同練習)

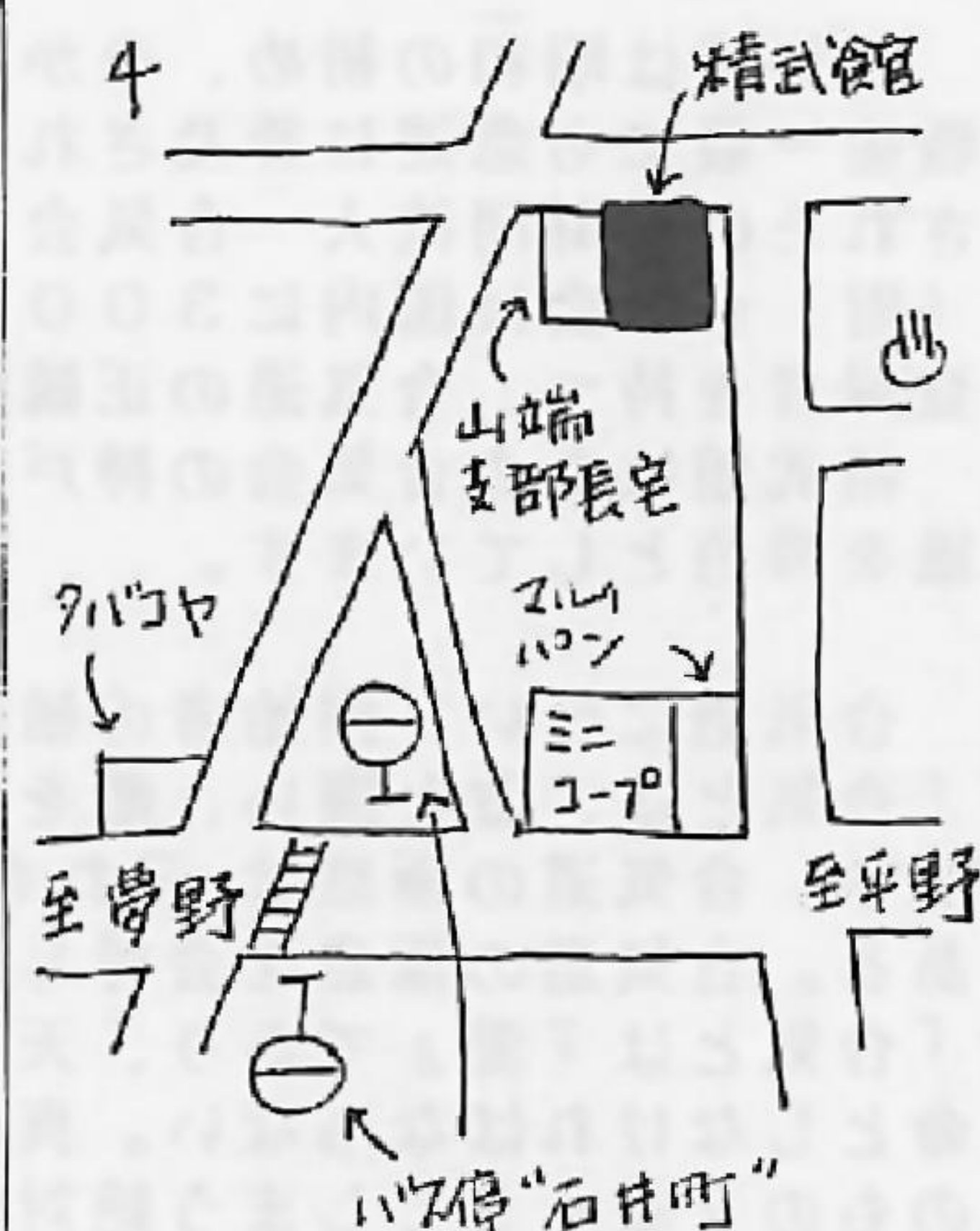
〃 17:30-18:00(中学生)

入会金：一般クラス 2,000円

子供クラス 1,000円

会費：一般クラス 2,000円/月

子供クラス 1,000円/月

**神戸支部・第二道場(中尾道場)**

連絡先：〒650神戸市中央区北長狭通8-1-1

☎(078)341-3980(自宅)/341-6395(店)

/382-1659(道場)

交通手段：JR神戸駅または阪神電鉄・西元町駅を北へ、宇治川商店街 藤内商店の西側すぐ

代表者：中尾真吾

稽古時間：月曜日 ----- 19:00-20:30

火曜日 7:00- 8:00 -----

水曜日 12:00-13:30 18:00-19:30

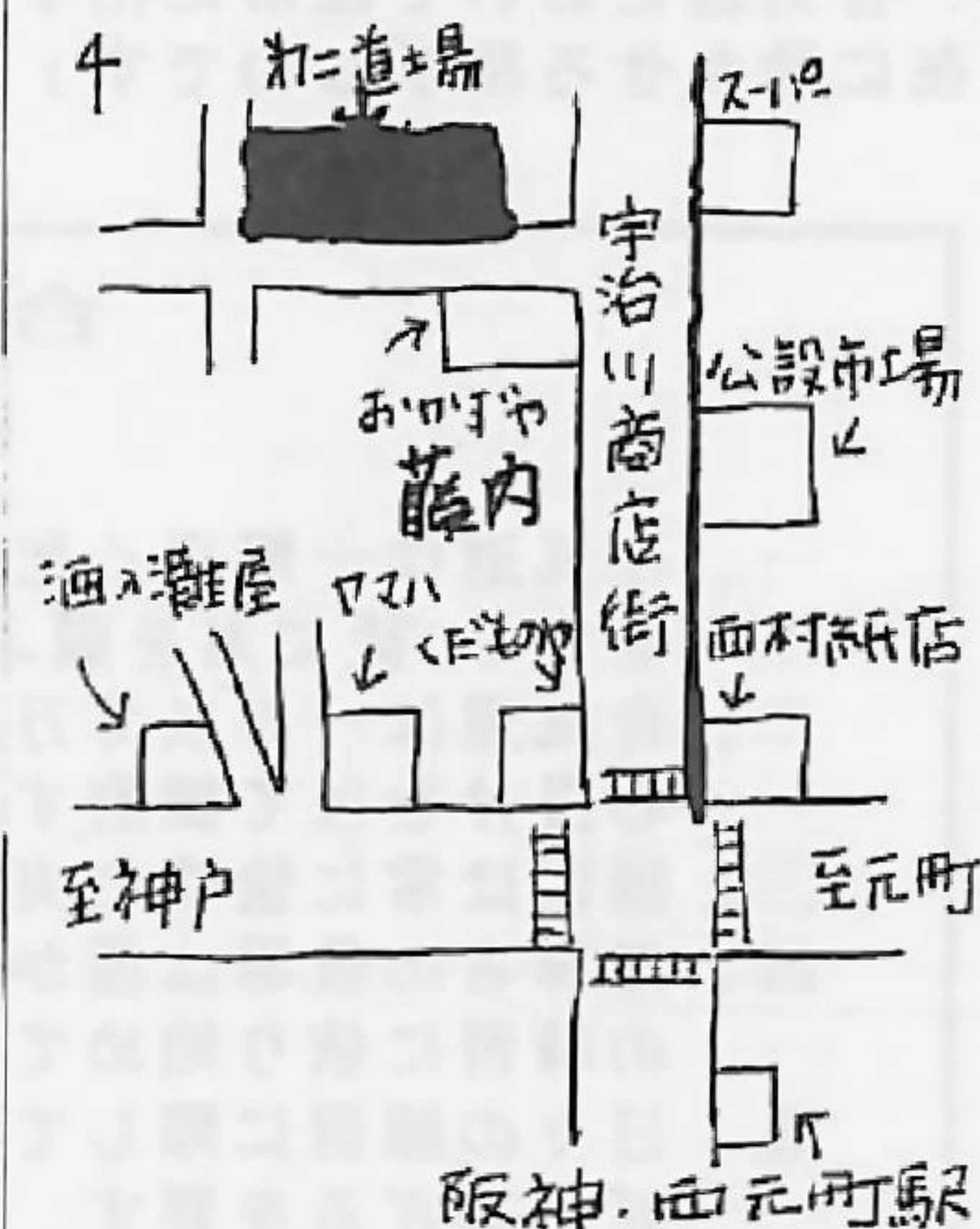
木曜日 6:00- 8:00 -----

土曜日 9:30-10:00 (杖の稽古)

〃 10:00-11:30

入会金：不要

会費：2,000円/月 (神戸支部会員は1,000円/月)

**明石道場(大蔵コミセン・合気道サークル)**

所在地：明石市西朝霧丘4-7 大蔵中学内

大蔵コミセン1階

☎(078)912-3620

交通手段：JR明石駅東口ステーションデパート前より、明石市バス「明舞団地行」「朝霧駅行」「松ヶ丘5丁目行」「朝霧2丁目行」のいずれかに乗車し「明高下」下車、徒歩2分

代表者：小久保宏

講師：濱崎正司

稽古時間：水曜日 18:30-20:00

入会金：1,000円

会費：1,000円/月 (神戸支部会員は無料)

